

経営比較分析表（平成30年度決算）

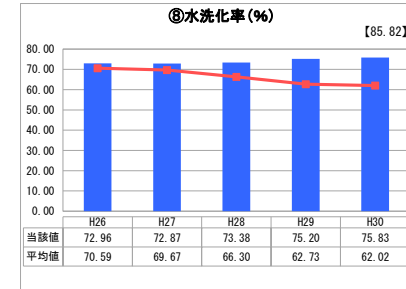
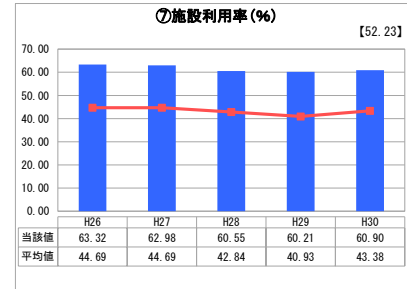
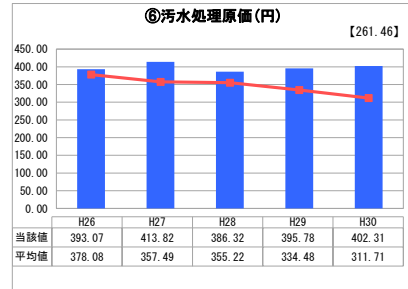
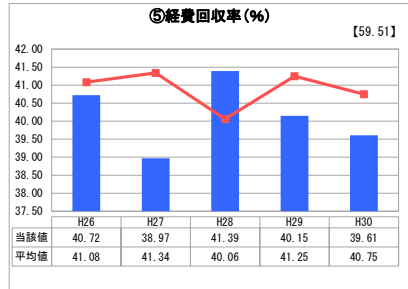
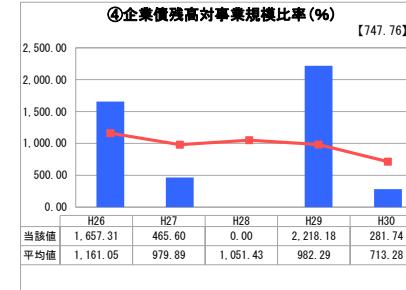
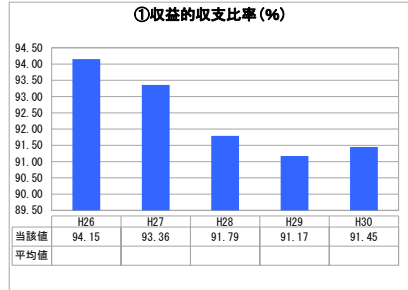
大分県 豊後高田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	3.30	82.20	2,880

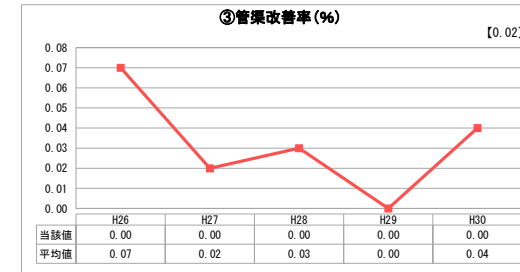
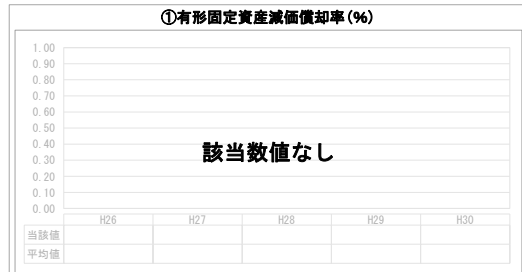
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,809	206.24	110.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
749	0.43	1,741.86

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率：
使用料収入によって、施設の修繕や維持管理に係る経費及び企業債利息の支払い等が賄えておらず、一般会計からの繰入金に依存しています。また、繰入金の減少により、右肩下がり状況となっています。

②累積欠損金比率：-

③流動比率：-

④企業債残高対事業規模比率：
(H28訂正：0.00% → 483.50%)
(H29訂正：2,218.18% → 574.51%)
集落排水処理施設整備の完了によって新規の企業債借入がなくなったことに伴い、徐々に企業債残高が減少しており、類似団体と比較すると低くなっています。

⑤経費回収率：
水洗化率が75%前後であることに加え、使用料改定（消費量による改定を除く。）も平成17年から行っていないため、使用料収入も低迷しており、類似団体と同程度となっています。

⑥汚水処理原価：
事業規模が小さく、処理区域内人口は過疎化とともに減少傾向にあり、水洗化率もほぼ横ばいであるため、有収水量（使用料徴収の対象となる汚水量）が伸び悩み、類似団体と比較して高くなっています。

⑦施設利用率：
平成16年度に施設整備事業が完了し、60%前半で推移しており、類似団体と比較すると高い状況となっています。

⑧水洗化率：
類似団体が減少傾向にある中で、徐々にではありますが、増加しており、70%台で推移しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：-

②管路老朽化率：-

③管渠改善率：
事業の開始時期が平成10年で、現在のところ更新が必要となる管渠はありませんが、耐用年数（40年）を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

全体総括

集落排水施設の整備は、平成16年度に完了し、水洗化率は、徐々に増加しているものの75%前後と低迷しています。これは事業計画に基づいて建設した汚水処理場等が処理能力の75%しか活用されず、25%分が余剰能力となっています。
今後も快適な住環境を維持するためには、汚水処理区域内の未接続者への加入促進を図るとともに、効率的な施設運営を行うため、特定環境保全公共下水道事業との統合を計画しています。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。